



# AIG Insurance

グローバルなテレマティクスの実績

ポール ブラウン

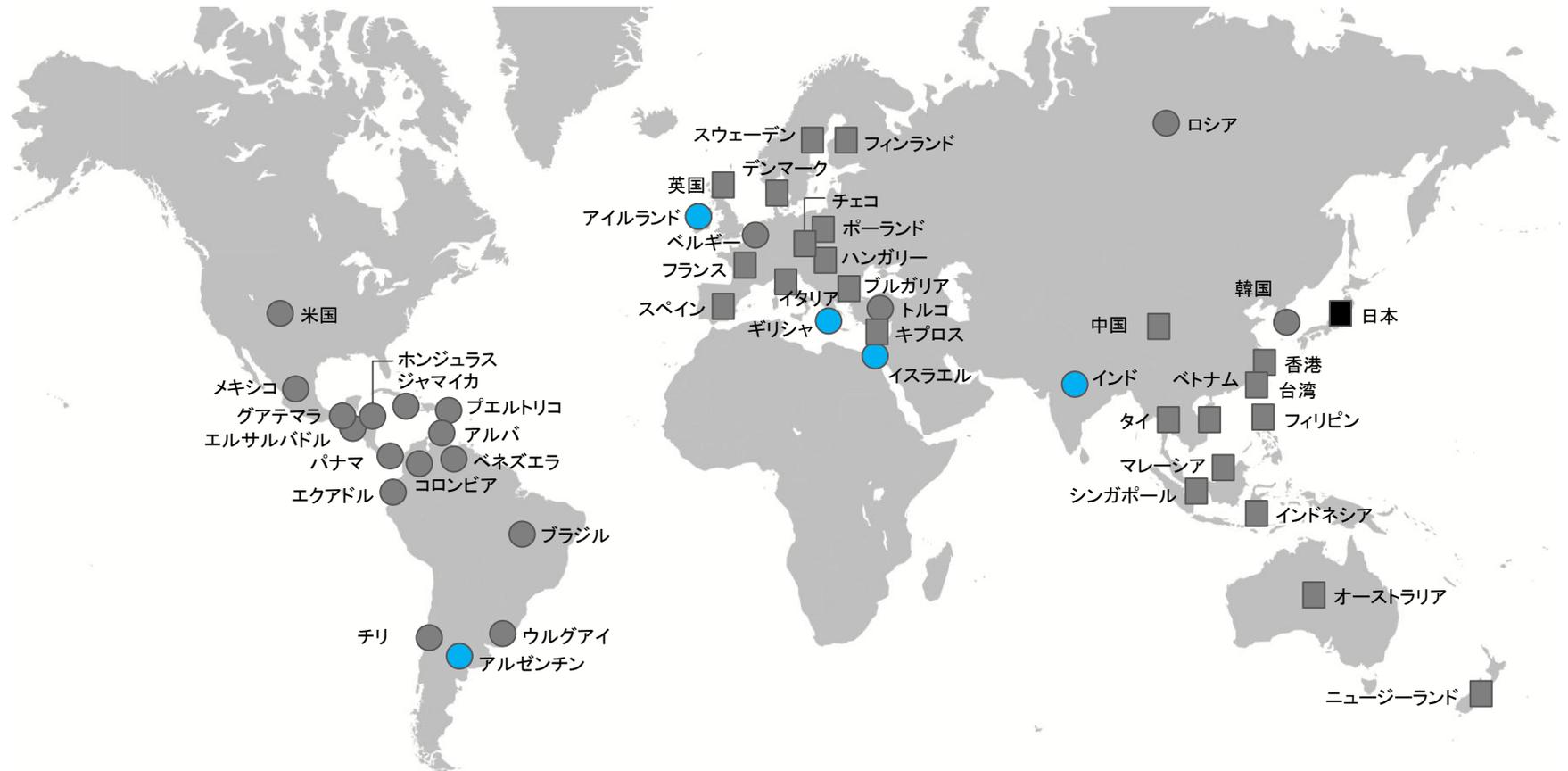
バイスプレジデント 自動車保険ヘッド日本担当

コンシューマーインシュアランス



# AIG個人向け保険の足跡

現在テレマティクス自動車保険を販売している国と地域



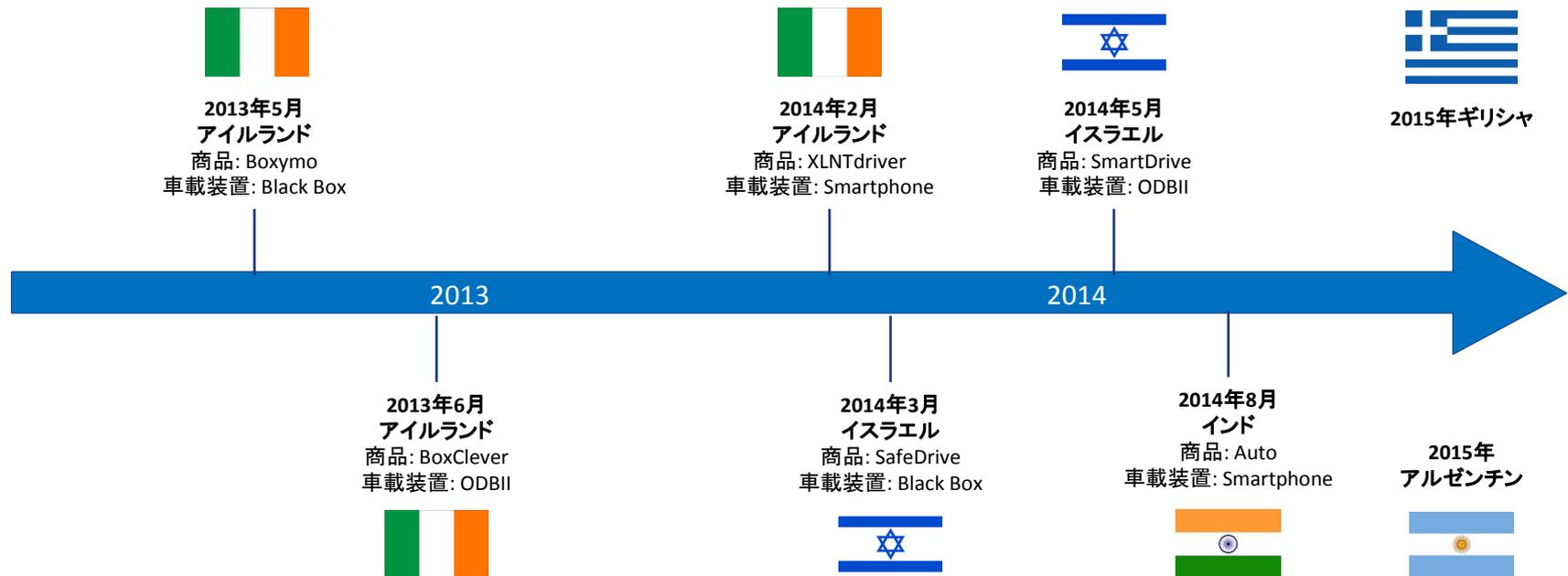
最初のテレマティクス自動車保険は2013年初頭にアイルランドで発売



# グローバルな実績

## 時系列と重要な情報

### Timeline



- アイルランドで最初のテレマティクス自動車保険プログラムを開始
- アイルランド、イスラエル、インドにてテレマティクス自動車保険を販売中。ギリシャとアルゼンチンにて販売開始予定
- テレマティクス技術は衝突防止警報や事故現場急行サービスによりドライバーの安全性を向上させる

# AIGテレマティクスプログラム

## 各国の商品の概要



### 現行プログラムと実施予定のプログラム

#### アイルランド - Boxymo

- 販売開始: 2013年5月
- 車載装置: Black Box (業者による設置)
- 販売チャンネル: ブローカー
- その他: 若年ドライバー層にフォーカス

#### アイルランド - BoxClever

- 販売開始: 2013年6月
- 車載装置: ODB II Dongle (契約者による取付)
- 販売チャンネル: 直販
- その他: ボーダフォン、タワーズワトソンとの試験的取組み

#### アイルランド - XLNTdriver

- 販売開始: 2014年2月
- 車載装置: スマホアプリ (The Flow)
- 販売チャンネル: 直販
- その他: 最初の携帯電話使用プログラム

#### アルゼンチン

- 販売開始: 2015年
- その他: 試験的な取組み

#### イスラエル - SafeDrive

- 販売開始: 2014年3月
- 車載装置: Black Box (業者による設置)
- 販売チャンネル: 直販
- その他: ローカルベンダー (Ituran) とのパートナーシップ

#### イスラエル - Smart Drive

- 販売開始: 2014年5月
- 車載装置: ODB II Dongle (契約者による取付)
- 販売チャンネル: 直販
- その他: 電話会社 (Orange) とのパートナーシップ

#### インド

- 販売開始: 2014年8月
- 車載装置: スマホアプリ (MyDrive)
- 販売チャンネル: 一般マーケット
- ターゲット層: 若年ドライバー

#### ギリシャ

- 販売開始: 2015年
- 車載装置: スマホアプリ (The Flow)
- 販売チャンネル: 直販
- その他: 試験的な取組み



# AIGのテレマティクス・プログラム

## 課題

### テクノロジー

- Black Box 設置の制約. 当該車載装置は自動車修理工場等での設置が必要で、全ての車種に適合するわけではない。
- ODB IIポートへのアクセス. フランス製及びイタリア製の一部の車種ではポートの位置がわかりづらく設置が困難。
- バッテリーの消耗. GPS使用によるバッテリーの消耗。バッテリー性能の向上により改善されつつある。

### 保険会社

- 経費管理. 車載装置の価格が高く、一般契約者向け商品の全てに導入するのが困難
- 従業員教育. コールセンターやオペレーションセンター等の業務部門においてはテレマティクス自動車保険は新しいものであり、十分な従業員教育が必要。

### 契約者

- 契約者とのコミュニケーション. 電話と書面による説明だけでは新規契約の解約率が高く、追加のコミュニケーション手段の導入が必要だった。
- 契約者教育. 契約者が「トップアップ」コンセプトを理解せず、期中の追加マイレージ購入要請を不快に感じるケースがある。
- 継続的な使用. 最初の90日間のレビュー期間後、契約者が興味を失いスマホアプリの使用を辞めてしまうケースがある。
- データ保護. 個人情報の適切な管理が不可欠

テレマティクス車載装置が収集する情報はデータ保護法で規定される個人情報に該当する。当該情報の利用については法に準拠した運用及び契約者の同意を有する。収集される情報の種類、使用方法、共有先及び共有方法について契約者に開示する必要がある。

Thank you



# 第7回自動車関連情報の利活用に関する将来ビジョン検討会（テーマⅠ）



## 国内テレマティクス保険実施に関する 想定課題について



TOYOTA TSUSHO CORPORATION

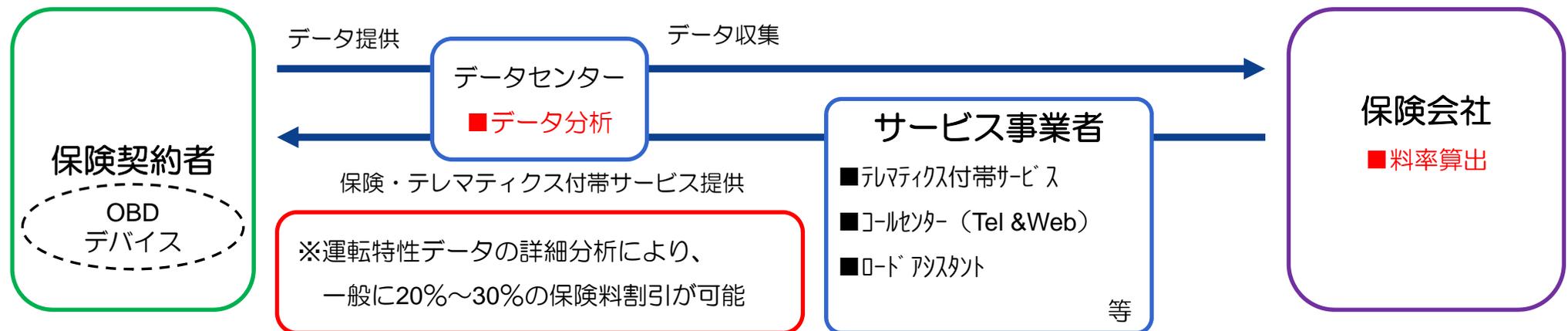
2014年 9月 30日

# 米国でのテレマティクス自動車保険

## 現状

- 先進する米国においては、各個人の走行距離に加え運転データを活用した自動車保険・損害防止サービスが存在。初期サービスはOBDデバイスを車に装着してデータ収集・分析を行い、優良運転者に保険料割引率を適用するもの。

## ビジネススキーム



## 付帯サービス事例

- 運転特性フィードバック : 車載ディスプレイ又はスマートフォンを通じて個々の運転特性フィードバックを行う
- 事故予測アプリケーション : 危険運転時や事故多発地点に接近した際に車載ディスプレイ等にアラームを通知する
- 若年運転者モニタリング : スマートフォンを通じて子供の運転を監視 (必要に応じて車載器への通信を行う)

## ＜現状サービス＞

OBDデバイスを車両に取付けデータを収集してデータを解析し保険料率を算出

## ＜将来サービス＞

自動車メーカーが純正装着する通信モジュール経由でデータを収集

OBDデバイスでは取得できない車両データも収集し、より細かな保険料率算出が可能

- ①テレマ独自料率の認可（＝損害保険料料率算出機構の純率に対するテレマ割引）
- ②テレマ割引料率算出のためのデータ標準化（項目やデータ交換規格）
- ③保険料が高額となるドライバーの無保険化
- ④保険仲介事業者へのサービス範囲拡大やサービスプロバイダーの設立支援
- ⑤テレマ保険に必要な車両データの取得方法
  - メーカー毎、車両毎(車種、年式 等)にデータの種類・フォーマットが異なる
  - 自動車メーカーにとって車両データは極秘情報であり、生データ公開は困難

以上